



月

如

分

令

特 別
A5
6590
12



ハ5
6590
12

月
抄

土佐城東

田村山三國編

良き序に在り

雪解のはらへん海すや川あり

卯のきりぎりすの牛の音も

ふも月おちるそとに

かよふ川へ



水田

序

雪あきそらうららかに
斗まじきまじき
はらへん海すや川あり
卯のきりぎりすの牛の音も
ふも月おちるそとに
かよふ川へ

おぼろげな光景を眺めては
生かぬ滅の理を悟るは社
中をめぐりてはあはれなる
光景を眺めてはあはれなる
あはれなる光景を眺めては
あはれなる光景を眺めては
あはれなる光景を眺めては
あはれなる光景を眺めては

のよへおぼろげな光景を
眺めてはあはれなる光景を
眺めてはあはれなる光景を
眺めてはあはれなる光景を
眺めてはあはれなる光景を
眺めてはあはれなる光景を

あはれなる光景を眺めては

あはれなる光景を眺めては

あはれなる光景を眺めては



月や女魂のり帰らぬを
志風

一せりららしむらじの秋風
三固

とらふのほむちをさるる越山
越山

龍く船よ 其龍
其龍

舟のあかき舟をのほむらう一嘯
一嘯

舟のあかき舟をのほむらう里川
里川

風の流るる舟をのほむらう其昌
其昌

らあはは海月の舟くまの文雅
文雅

舟のあかき舟をのほむらう鳥旭
鳥旭

舟のあかき舟をのほむらう月下
月下

舟のあかき舟をのほむらう貫三
貫三

舟のあかき舟をのほむらう草花
草花

舟のあかき舟をのほむらう可水
可水

舟のあかき舟をのほむらう知三
知三

舟のあかき舟をのほむらう蘭石
蘭石

七のりや神傳にちあじくは
其風亭 一嘯叟
松隣舎
 牙之終を憐しく海客の臨む所か
東冬舎 其昌
 まふの光を照らすも酒ぬみを信ず
雲林堂 烏旭
 月をて師の御氣を や 酔のまは
咲言亭 其竜
 捧くともちかたまきや羊のふか
 遊耳

長江集

おきまひんころ申候ふし 秋は心
東海林 松二
 ほうらんは 獅きやれつう月八日
無盡庵 貫三

山海百重やめくはあらしの
 けをいまうあくくくくくくくく
 ええうてまはるく人の排けらる
 影をうたてててててててててて
 英子ありとけの里をうたてててて
 古梁先先師の指揮をさうてて
 らくくくくくくくくくくくくく
 さくくくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくく
 のくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくく
 てはれこの世をさうまはぬくく
 よすよすのくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくく

六子にハ莫学のより親子の
 思ふ水ハ新居新居の心も
 一とて 酒を解するの心
 言ふは酒ハ 侍へる心
 肝を結へる心
 心を結へる心
 め一とてもの 侍へる心
 心を結へる心
 心を結へる心

甲斐の神も同く水の秋

微笑仙三
三固

春の向ける心
 尚も春の心

ちげやちねもささく ちねもささく
 春の心もささく 春の心もささく
 秋の心もささく 秋の心もささく
 冬もささく 冬もささく
 下もささく 下もささく
 一とてささく 一とてささく
 秋もささく 秋もささく

足楯山主 素外
 敬居田 如翠
 欽古
 清蕭
 璞高
 若林
 田村大流社 文雅
 里川

朝のや木の花より 境を道 草花
 夕の空より 霞を空に 月下
 初風のそよぎ 庭を花 三鼎
 昔のよきより 今も 知三
 吹つた風は 懐かしい ぬ蒨
 庵の庭水より 推のり 此の字 可水

二七三

城東

鏡川社中

朝の庭を人か解 知者
 夕の空のなごり 霞を空に
 わらわの庭水より 推のり

無言の庭

一止

朝の庭を人か解 知者 志菜
 夕の空のなごり 霞を空に 睦友
 わらわの庭水より 推のり 波英
 昔のよきより 今も 知三 鯉寛

振袖をきつてむ玉章

南瓢

初雪の清くくうはの香の匂い

梅石

御いもやまの雪の無常

静楽

おまんの章

名作

海生のうも野のまはりの香の匂

志英

知りしうらなりの花の匂

撫石

お酒のうらみの香の匂

興寛

谷枝世

立田世

野市

濃きうらなりの月の梅の匂

波英

暮のうらみの香の匂

南瓢

うらみのうらみの香の匂

静楽

ありしうらみの香の匂

睦友

競り花のうらみの香

一止

吉原世

うら

字阿松信

大人おのうらみの香の匂

御書
御書
御書

甫曉

ぬいそりきりきりきりきり
凡そりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり

鷺仙
虎産
雨虹
可橋
其水

きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり

陶左
柳雨
萬故
英二

松濤庵
鷺仙
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり
きりきりきりきりきり

松濤庵
鷺仙

海音のささげの葉は秋の月
 梅の香はささげの葉の香
 はささげの葉の香はささげの葉の香
 本よりささげの葉の香はささげの葉の香
 湯川流のささげの葉の香はささげの葉の香
 きささげの葉の香はささげの葉の香
 馬関のささげの葉の香はささげの葉の香
 人馬のささげの葉の香はささげの葉の香

万故
 水
 柳雨
 多如
 の橋
 席産
 芳二
 陶左

ささげの葉の香はささげの葉の香
 中一也
 甫曉

中一也

仲津のささげの葉の香はささげの葉の香
 梅の香はささげの葉の香はささげの葉の香
 ささげの葉の香はささげの葉の香

玉とる人ささげの葉の香はささげの葉の香
 梅の香はささげの葉の香はささげの葉の香
 芳水
 中一也

秋のちゅうも草のたなを
 ろうわうーるあふらひさのり
 こみかろてさふもきぬまろ
 きわうあふもまにさのほさ
 ちちらふま

屏六
 椿風
 雲き
 穴傳

春詠

春詠う揺傳のこくマの
 岸傳うゆの夕日や吹掃さふ

竹
 穴傳

名月やたふひはほらちの
 浄折くは葉のさや村屋を
 り秋や深ものさぬまのたし
 夕影のこらつて暮年のあひ

屏六
 椿風
 仲化
 芥水

長歌

長歌のうらなはほらちの
 夕影のこらつて暮年のあひ
 夕影のこらつて暮年のあひ
 夕影のこらつて暮年のあひ

河のまじりて流るるはれぬ世の安
二見庵
旭松

一抱するその松や塚は月
雲名庵
其嶺

之を又此の世に
平にまじりて流るる

塚ももつて河に流るるはれぬ世の安
美濃行脚
調固坊

余興

け秋の安あつてはれぬ世の安
大埔
至化

月見一里一里はれぬ世の安
蘭石

縁堂より帰るるはれぬ世の安
一嘯

ありとらぬ

手くくはれぬ世の安

鹿野花連中

信持一海や井角りて
吐花

摩子厄心

つらき種多きもくくはらへくそ中 福銘山 真池

初枝や巾の筆さし 吉祥山 飯西

以舟の竿はり 旗鈴山 知水

玄阿比古や流れ あまの 龜毛

夏も流す硯の海や 豊原山 龜毛

白梅の花よ 室津 座月

若市や振あて 幸山 玉垂

きや 岩村 鳥名

水さ あき 龍院

り ち梅 琴楽

ふ 山下 总仙

き 若中 心月

ろ 甲浦 平白

○

お 高智氏門 毒友

き 坊川 素行坊

縁りもも海らるん処や 浦まふ、
 尾白坊
 只しぬ福を案処の子文て大雄乳、
 戸波
 浪もり月を照や 田橋も
 以之坊
 春ふり一舟をいほの流麻乳、
 分中村
 さし富も水も水位も名あり
 魯沁
 法もあつたつて海一々平舟、
 此美
 あまうーあまうーもまゝ初のが、
 李橋
 織湯の湯を吹きやーあ袖 田
 比卜

腰表もあはゆふらー海士軒 さむら
 為志
 唐地元の浦もあまゝの唐菜、
 桃菜
 新唐菜の腫るーをさすの南、
 花園
 羅の唐菜引のの車一障 高池
 十雨
 名經の流り利益は唐菜流れ 源美
 青宇
 けさささ唐菜あまゝの海子我 おたひ
 南里
 風つけーんささ山もあつたのり 久林さや童
 東床
 春もささし唐菜ーあささの流 物部
 初教

雲の風をきく河にうらを 四村 九
 空遠の果てはゆりし海を幸 三車 是
 海雨をうしり 聲あるもつゝの 如松 三
 春風を 蕙を 一 泉を 又うけし 坂下 甲名
 風を 後し 初凍りきと 月のいろ 松名 松名
 松名 初凍りきと 月のいろ 松名 松名

二つと 雲を 河に うらを 志名 志名
 注連の 船を 一人 舟を 舟の 松名 松名
 雲の 海を 雲を 雲を 雲を 松名 松名
 浦風を 舟を 舟を 舟を 舟を 松名 松名
 松を 舟を 舟を 舟を 舟を 松名 松名
 山を 舟を 舟を 舟を 舟を 松名 松名
 松を 舟を 舟を 舟を 舟を 松名 松名

西の... 柳井... 小津園... 田村山... 之園

他郡の地

... 小津園... 柳井... 之園

... 柳井... 小津園... 之園... 可遠

古人の部

世に世をなすも馬や 杉木凡 雨田菴
よおけくもまきりおろめや かし柳 一樂庵
藤のたけ人かきまきらぬか 徐風菴

。

くふいゝゑり一はらむ心ま 高松門 桃陽
堂や井も枝のぬ 粉粉の 沙羅
おかりまうらむまのりまのをも 章風

結さつし枝もふきくろのま
 本地川の橋しつたやうんこ
 芥子もちん中月もいさ
 夕虹の袂し橋しは那
 橋より中しつたやうんこ
 秋の夜もいさ
 清きや地しつたやうんこ
 流るるもいさ

子羽
 秋化坊
 以玄坊
 呂六
 琴水
 青雨
 楓齋
 芙蓉坊

一はつたのま
 子風もいさ
 結さつし
 結さつし
 結さつし
 結さつし
 結さつし
 結さつし
 結さつし
 結さつし

前五基の主
 雲漢
 知声
 赤野
 赤雲
 二貫
 其川
 宮内
 牛松
 無窮
 右之

草花のやまのふりしる 花の海 野田 龍也
竹のよやまのふりしるのち 野田 虎竹
あまのよやまのふりしる 三 愛山
あまのよやまのふりしる 三 之悲

地 後 子 女 今 日

のち 龍 子 女 今 日
編 子 筆 子 女 今 日

逢 茶

あまのよやまのふりしる 秋 龍

+

蕉門書林

皇都寺町通二條

橘屋治兵衛梓

